

週刊 東洋経済

10月28日号
340円



中川一郎自殺の原因は 口ヅキ！ド聴取だつた！

1983年1月9日、なぜ「北海のヒグマ」は浴衣姿で首を吊り、この世を去了のか。

秘書、鈴木宗男が27年間、口を噤んでいた誰も知らない秘密の暴露……。

情けない「井川」のせいで売値暴落「ダルビッシュ」

時代は女装の巨漢山「紳助さんま」を捨てて「ミコテラクス」に走ったテレビ

引退翌日にマタニティーラック？「谷亮子」に政治家も引退のススメ

まもなく要介護人口500万人

40歳からの「介護」入門

地獄を見すに済む

▼天島渚に口移して水を飲ませる「小山明子」鬱からの脱出

▼未経験者に必要な「親が倒れた翌日の基礎知識」

▼オムツ交換「深夜は50円」が積もって自己負担はいくらか

▼大腿骨を骨折した「野坂陽子」が語る「兵隊」こと

▼最も困難な介護、どう「体が元気で認知症」を笑わせろ

▼ナガラガラの滝まで連れていく「トラベルヘルパー」

▼胃に穴を開けないための「ふまじめ」介護

「仙谷由人の研究」前編

ついに宿敵「小沢一郎」を討ち果たし、今や権勢をほしままにする「元学生運動」の闘士。

だが、彼には國家ナンバー2のポジションに相応しくない知られざる過去があつた。

庶民的「焼き鳥」より超高级「焼き肉」市民派「富士人」美食日誌

日本ルネッサンス拡大版 櫻井よしこ

中国が掘削を强行！指を咥えて看過した菅内閣 東シナ海「ガス田」に紅い火が灯る

荒れ狂う「反日アモ」は中国政府公認

無策の攻撃がぬるま湯に浸かる間に、いつしか尖閣は中國の外交カードになつた。不満分子の炎上攻撃を兼ねて反日アモを罵り飛ぶ老獪な中共は沖縄にも色目を使い始めた。

引退翌日にマタニティーラック？「谷亮子」に政治家も引退のススメ

アドバイス係のラジオ漂流記 青島広志

セブンティップ天国ときどき地獄 関 陽子

気になる手 中原誠 青葉かおり

私の週間食卓日記 朝川泰宣

大人のマンガ 読むマンガ

B級重大ニュース

黄泉から来た女 内田康夫

ナニワモスター 海堂 尊

虚像 高杉 良

黒い報告書 前川麻子

■新久句歌謡時記(嵐山光三郎・嵯乃留)…82 ■櫻元板 84

■TV視聴室…123 ■桔梗 120 ■墨禪銘 121

管見妄語(藤原正彦)…22

おうちよクリック! 158

中年弁当男子 164

一步先行くものでないの宿 166

管見妄語(西原理重子)…168

グラビア 潟谷昌頭二コース(作陣場・西原理重子)…170

■週刊新潮 下部区北小路通四条下ル石井町 075-361-2336

あと祭り 渡辺淳一	62
変見自在 高山正之	148
おれのゴルフ 青木功	118
オモロシテックボム 川上未映子	65
オギノメ端の日 萩野日慶子	74
國語学全日本教科書再読 小島毅	61
丁々かつへん録 吉田潮潮	68
サイエンス宅配便 竹内憲	67
がんの練習帳 中川恵一	116
世間の値打ち 福田和也	116
恋愛ひもすてぐるり日記 菅藤由香	72
なんだかな人生 柳沢きみお	100
アドバイス係のラジオ漂流記 青島広志	113
セブンティップ天国ときどき地獄 関 陽子	114
気になる手 中原誠 青葉かおり	76
私の週間食卓日記 朝川泰宣	98
大人のマンガ 読むマンガ	77
B級重大ニュース	97
小説 黄泉から来た女 内田康夫	90
ナニワモスター 海堂 尊	102
虚像 高杉 良	78
黒い報告書 前川麻子	109
■新久句歌謡時記(嵐山光三郎・嵯乃留)…82 ■櫻元板 84	
■TV視聴室…123 ■桔梗 120 ■墨禪銘 121	
管見妄語(藤原正彦)…22	
おうちよクリック! 158	
中年弁当男子 164	
一步先行くものでないの宿 166	
管見妄語(西原理重子)…168	
グラビア 潟谷昌頭二コース(作陣場・西原理重子)…170	



り食事をして話をす

どと問い合わせました。最初は無反応でしたが、毎日根気よく続けたら、妻が話題に反応し始めた。笑うようにもなって、介護を始めて1年7カ月後にはボケの症状も改善されたんです」

その後、不幸な事故で植物状態になつた登美子さんは、06年3月、他界する。だが、前高槻市長が語るこのエピソード、多くの患者・家族を勇気づけるに違いない。

「下薙ストロー」をいかに
こだわる春美七、見庄は、
建長犬、怠こよしらうし

発散するか、それが大事と専門家は言う。それならいっそ、寝つきの家族とニアガラ見物にでも行っちゃう？ ううん、やっぱり無理だよねえ……いいえそれが無理ではないんです

ルバーアイ養成機関「NPO日本トラベルヘルパー協会」理事長でもある篠塚恭一氏が解説する。

「うちのお客様の平均年齢は80歳前後でしようか。最後のチャンスなので新婚旅行で行つた温泉地を訪ねたい。『寝たきりなので、家族を少しの間でも休ませたい』といった理由で申し込まれる方が多い。逆に、父が（母）に、最後に見事な紅葉を見せたい」といったご家族からの依頼もあります。重度の要介護の方でも、①他人と最低限のコミュニケーションが取れる、②ご家族が承認している、③担当医や介護専門家の協力と許可がある、ことを条件にお引き受けしているんです。

「リビーターが多く、うち
食事代が“もう1人分”余
計にかかるのを考えれば
決して安くはない。だが、
旅先は、国内に限らない。
「海外もこれまで20カ国ほど出かけています。エチオ
ピアに車椅子を寄付される方をご案内したり、ヨルダ
ンの砂漠を見たいという方にお供したり。ナイアガラ
の滝にも行きました」

まつたく動かない。1日中病院に行く以外は、ろくな外出もしなかった」そう語る「要介護5」の細野寿一さんは、「元気と勇気を振り絞って、」トランペルヘルバー付きの旅行に出かけたのは、昨年2月のことだった。

「おれにはまだ、作詞作曲家になるという夢があつてね。尊敬する作曲家・船村徹先生の、宗谷岬にある歌碑に触れてみたかった。大吹雪で飛行機が稚内空港に着かず、旭川からタクシーを頼んだりしたから時間も旅費も余計にかかった。でも、良い旅だった。妹と2人で毛布くるまつて、歌碑の前で長い時間過ごした

胃に穴を開けないための「ふまじめ」介護

最高の時間でした。おかげで、いまや来年の旅行まで計画している。兵庫の日本海の風景写真が新聞に載っていたんだが、もうそこに演歌の世界があるんだ。い詞詞を書くためにも是非とも行こうと決めていた

者の旅行が拡大しつつある
という。先の篠塚氏の話。
「観光振興策として高齢者
の旅を受け入れる自治体が
増え、たとえば富士河口湖
町、東伊豆町、山形の最上
町などでは福祉予算で自前
のトラベルヘルパーを養成

「介護」で出かけても、最寄り駅から先はそういう資格を持つ職員の方がお世話をしてくれるという取り組みが始まっている。各地の土産物屋の陳列も、車椅子でも商品を手に取れるようになりつつあるんです」

「ふまじめ」のスメ
その点、先に登場した講
談師・田辺鶴瑛さんの「手
抜き」は潔いほど徹底的だ。
心中に走りかねません」

結局、毎日同じものでは飽きるから変化をつけようといった介護は自分の独りよがりだった。田辺さんはそう断じる。

行も良いけれど、やはり普段から「介護ストレス」を溜め込まないことが一番大事。介護の先達たちに、その“極意”を聞くと……。

は、多少の不自由はあるものの日常生活をこなせる程度に回復、認定も要支援2度に変わったが、「やはりどこかで介護を仕事に足りない」と、土井がうつすに、

きや、言うてるんです」
介護ジャーナリスト・小山朝子氏は、今後ますます増加する見込みの「男性による介護」に警鐘を鳴らす。

「夜中でも関係なく、腹減った」「水が飲みたい」と大声で叫びます。でも、実母、義母を介護したこれまでの経験から、放つておいても

「言葉では、NHK出身のフリー・アナウンサー・広瀬久美子さんである。それ以前から広瀬さんは、番組の仕事と近所に住む孫の世話を、そして毎日の夫の介護が統っていたといふ。広瀬さんの夫は一昨年、脳梗塞を発病し、入院。右足と右手に障害が残り、要介護2と

ていたんですね。でも、胃に穴が開いて以降は、手抜きを覚えました。私は今日はお休み」と宣言して、その日は夫だけで近くのスーパーまで買物に行つてもらう。“頼りにしてる”と態度で示すことが、夫にも勵みになると分かつたんです」

先の江村・前高槻市長も、完璧を求める性格は、介護には向いてない。ですから「何でも一生懸命になり、

に介護される例も増えてきた。男性の場合、外での仕事同様、介護も「完璧に」こなそうとする。女性はもともと家事・育児・仕事の両立で手の抜き方を知っているが、男性はそれができない。筋萎縮性側索硬化症(ALS)の妻を長年介護する夫を取材したことがあります。本当に献身的で介護サービスを利用している間も休まず妻のそばにいる。

接てしまい、認知症ですか
ら無視されたことも覚えて
いないんです。食事も、最
初のうちは煮魚、焼魚と色
々工夫しましたが、骨があ
るなどと文句を言つて、な
かなか食べない。義父は、
なぎなら大好きでよく食
べるので、最近では毎日、
なぎ入りのお粥にして、い
うのですが、昨日食べたこ
とはもう忘れていますから、
いつも、美味しい美味い、と



広瀬久美子さん(右下)と田辺鶴瑛師の「ふまじめ介護



十二支記念館 10月25日月オープン
"CHINESE ZODIAC" MUSEUM

松島十二支（えと）記念館では、中国の高名な仏像作家が製作した十二支の守り本尊（大きさ約5～6mの大型乾漆仏像）をはじめ、十二支に関する情報も展示します。松島観光の際には、宮城県の新名所・五大堂前の「松島十二支記念館」にぜひ立ち寄りください。

松島十二支記念館

〒981-0213 宮城県宮城郡松島町松島字善賢堂13-1 ■ 営業時間：8:30～17:00・年中無休
TEL.022-290-7311 FAX.022-290-7312 ■ 入館料／大人800円・中高生500円・小学生300円